

科目名	国際経済史	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	左近 幸村	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-B-3-350009	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	<p>本講義ではグローバル化の歴史がこれまでの研究でどのように捉えられているのかを、説明していく。</p> <p>長い間、日本の学校で教える「世界史」は国という単位を重視し、諸外国史の集積として「世界史」を描いてきた。しかし近年の歴史研究とりわけ経済史では、国家の枠を超えた視点から地域間の出来事を一体のものとして捉え、現在のグローバル化の歴史的起源を探ろうとする試みが盛んである。この講義は、そうした近年の経済史の動向を踏まえたものであり、19世紀と20世紀の話が中心になる予定だが、それ以前の時代についても扱う。</p>				
学修到達目標	<p>グローバル化にどのような歴史的段階があるのか説明できるようになる。</p> <p>アジアとヨーロッパの関係が、どのように変化してきたかを説明できるようになる。</p>				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	イントロダクション： グローバル化と経済史
第2回	グローバル化以前の世界
第3回	グローバル化の開始（16世紀）

第4回	危機の時代（17世紀）
第5回	近世経済の成立（18世紀）
第6回	1回目の小テスト
第7回	工業化の開始と普及
第8回	移動の拡大と制度的枠組みの変化
第9回	植民地体制の変容
第10回	工業化の新しい波と世界大戦
第11回	世界大恐慌
第12回	2回目の小テスト
第13回	再始動するグローバル化

第14回	グローバル化と開発
第15回	加速するグローバル化
第16回	期末テスト

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。該当する章を読む。
【復習】時間・内容	2時間。ノートを見ながら、該当する章を読む。

成績評価	
評価基準・方法	期末テスト（60%）、2回の中間テスト（各20%、計40%）により評価する。期末テストは、レポートに変えることがある。全部出席してもテストの成績が悪ければ落ちるので、注意すること。
フィードバック方法	小テストについての講評は、授業中に述べる。 期末テスト（レポート）の講評は、ポータルサイトで公表する。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	

教科書/参考書	河崎信樹・村上衛・山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年、2800円＋税。 世界史の知識に不安があるものは、参考書として『最新世界史図説 タペストリー』帝国書院の購入を勧める。高校の世界史の副読本だが、基礎的な知識の確認に役立つ。
受講上の留意点等	高校の世界史B程度の知識があることが望ましい。 授業は、もっぱら板書により行う。
JABEE	